
ありがとう

クローバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【Nコード】

N1931M

【作者名】

クローバー

【あらすじ】

新一は、車の不注意で死の境目にいた。蘭は、付きっきりで、新一のそばにいた。新一は、目を覚めますが、
、
新一は、死んでしまいます。「新一は、死なないでほしい、」と思う人は、スルーしてください。

最後の言葉（前書き）

この小説は、新一のご両親、クラスメイト、服部平次などは、出てきておりません。新一、蘭だけが出てきます。あらかじめ、ご理解ください。

タイトルと、小説を少し直してしまいました。すみません、、、。

最後の言葉

新一は、車の不注意によって、死の境目にいた。

「新一、、、。新一、、、。お願い目を覚ましてよ、、、。」

蘭は、泣きながら新一のことを呼び続けていた。

そして、二日後、、、。蘭は、寝ていると誰かに触られたような気がした。

蘭は、そっと目を開けてみると、、、新一だった。

「し、、新一、、、。いま、お医者さん呼ぶね。」

蘭は、涙を溜めながら行こうとしたら、新一が手を引っ張った。、、、とても弱い力で、、、。蘭が驚いていると、新一は静かにわずかが、横に振った。

「ど、、どうして、、、。だ、大丈夫なんでしょ、、、。元気になるんでしょ、、、。」

蘭が、消えそうな声で言うと、新一は、目をつぶったまま言った。

「お、、俺はもうだめだ、、、。」

「ば、、ばか、、、。何言ってるのよ、、、。こ、、こんなの、新一じゃないじゃない。」

蘭は、さっきから溜めていた涙を、一気に流した。新一は、目を開けると蘭を見た。新一は、蘭を見つめながら、弱い声で言った。、その瞳は、穏やかだった。

「蘭に、頼みた、いことが、ある。、父さんと、か、母さんに、あ、ありがとう、と、伝えてくれ、。、ら、蘭に、言いたいことが、あるんだ、。、蘭の、ことが、ずっと前から、す、好きだった、。」

「私も、ずっと、好きだった、。」

蘭は、泣きながらも答えた。、新一は、蘭を愛しそうな瞳で見た後、につこりと微笑むと、優しく言った。

「ら、蘭、。お、俺がいなくなっても、し、幸せになれよ、。、だ、大丈夫だ、。お、俺が、ずっと、み、見守って、い、いるから、。、蘭、元氣、でな、あ、愛してる、。」

新一は、一筋の涙を流した後、ゆっくりと瞳を閉じていった。

「し、新一、。起きてよ、何か言ってよ、ねえ、新一、。新一――――。」「

蘭は、涙が枯れるまで泣いた。

けれど、聞こえてくるのは、一定の機会音だけ。あの優しい声は、聞こえてこないのだった。

「愛してる、。」「この言葉が、新一から蘭への最後の言葉だっ

た、
、
、
、
。

最後の言葉（後書き）

蘭ちゃんが、かわいそうになりました。「自分で、書いたのだけれど、。。。」

新一君、なんかごめんなさい、。。。「まあ、。。いろいろと、ね。」
ぜひ感想などもよろしくお願いします。

青い花（前書き）

前回の続きです。

タイトルとは、少し違うと思いますが、あらかじめご理解下さい。

青い花

、、、、新一がいなくなつてから、早々五日がたった。

蘭は、新一が事故にあつた場所へ行つた。そしたら、青い花が一輪咲いていた。その青い花は、新一の瞳の色と同じだったので、持ち帰ることにした。家に帰ってから、植木鉢に植えてた。植木鉢には、「新一」と書いた。

、、それから、一週間たった。不思議なことに、青い花は枯れなく、しおれなかった。

あれから、二年後。蘭は、新井で先生と結婚式を挙げた。蘭は、とても幸せそうに笑っていた。そんな蘭を、青い花は風に揺れながら、見ていた。、、少し寂しい面影も、漂っていた。

三日後、ずっと枯れなかった青い花は、突然枯れてしまった。蘭は、どうしてか悩んでいると、新一の声がした。

「蘭、おめでとう。幸せにな、、。これでもう、俺の役目は終わりだな、、。元気だな、蘭。」

蘭は、慌てて周りを見渡しても、どこにも誰もいなかった。蘭は、ふっと、新一の最後のときに言った、ある一言を思い出していた。

「俺が、ずっと見守つてやるから」

蘭は、何故か涙が溢れた。そして、「新一」と書かれた植木鉢を、ギョツと抱いた。、、感謝の気持ちを込めて、、。蘭は、枯れてし

まった、青い花を見た後空を見上げて、小さな声でつぶやいた。

「ありがとう。私だけの、小さなナイトさん、、、。大好きだったよ、、、。」

そうつぶやくと、突然強い風が吹き、花びらが数枚空にまっけていった。蘭は、それを見て微笑むと静かに言った。

「ありがとう、、、。忘れないよ。」と、、、

蘭は、その日一番の笑顔を向けた。、、、二年前の時も、ずっとずっと好きだった、今はいない愛する人に向かって、、、。

その日は、いつまでも青空が広がっていた—————。

END

青い花（後書き）

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。

初めての連載だったので、文章が変だったと思いますが、ご理解下さい。

良かったら、感想を下さい。

これからも、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1931m/>

ありがとう

2010年10月28日04時57分発行